労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。
これは人間の仕事である。

会場：バロー文化ホール（多治見市文化会館）小ホール

中村哲は問う――“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

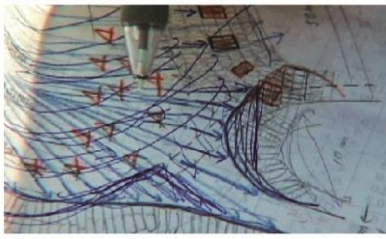
令和７年２月８日（土）１４：００～１６：００

上映後トーク企画：高世 仁 氏（ジャーナリスト、書籍『中村哲という希望』著者）他

医師 中村哲の 仕事・働くということ

語り◎室井 滋　朗読◎塚本晋也

写真、映像提供◎ペシャワール会／ＰＭＳ
企画、提供◎日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 センター事業団
一般社団法人 日本社会連帯機構
製作◎日本電波ニュース社　ＨＤ／16：9／カラー／47分



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒労である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」

「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。
中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」
上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）はその産声を上げた時から“失業・貧乏・戦争なくせ”をスローガンとして活動してきました。
その日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた

令和７年２月８日（土）１４：００～　３０分前より受付/開場

バロー文化ホール（多治見市文化会館）小ホール　＊定員350 名（先着順）

〒507-0039 岐阜県多治見市十九田町 2-8

料金：一般 1,000 円　学生 500 円　障がい者・高校生以下無料

上映（47 分）後、トーク企画

高世　仁　氏（ジャーナリスト、書籍『中村哲という希望』著者）

【申込】下記にご記入し FAX(0572-25-3730)、
もしくは QR コード⇒

お名前		参加日時	2/8(14:00～)
電話番号		mail	@
他観覧者名			

主催：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団多治見事業所
共催：一般社団法人 日本社会連帯機構
後援：多治見市

WORKERS'COOP

【問い合わせ】0572-25-3730
【受付時間】平日：10:00-17:00